

自己評価報告書(最終報告)

コース等名	臨床心理士養成コース	記載責任者	栗飯原 良造
-------	------------	-------	--------

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

1. 目標・計画

臨床心理士養成の大学院の増加によって、入学試験合格者の多くが他大学院に流れる事態が続いており、今後も定員の確保は容易ではないことが予想される。そこで、以下の目標・計画を立て、定員確保に努めたい。

- ①県内および県外で公開講座を実施し、臨床心理士養成コースの紹介を行い、受験を強く勧めていく。
- ②同窓会とともに開催している「鳴門生徒指導学会」を開催した際に、広報活動を行う。
- ③臨床心理士に関する雑誌等に本コースの紹介を掲載する。
- ④大学院説明会で、参加者に本コースの特色をよく知ってもらい、入学への動機づけを高める。

2. 点検・評価

- ①県内および県外で公開講座を実施し、臨床心理士養成コースの紹介を行い、受験を強く勧めた。
- ②同窓会とともに開催している「鳴門生徒指導学会」を開催した際に、広報活動を行った。
- ③臨床心理士に関する雑誌等に本コースの紹介を掲載した。
- ④大学院説明会で、参加者に本コースの特色をよく知ってもらい、入学への動機づけを高めるように努力した。

I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。

貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

1. 目標・計画

- ①修士論文の指導とともに、院生が担当するケースおよび実践に対する個人スーパーヴィジョンおよび集団スーパーヴィジョンを重視し、心理臨床家としての学生の初期教育を充実させたい。
- ②徳島県内の臨床心理士養成の大学院と連携し、研究・教育をすすめる。
- ③個人の面接技術および対人関係スキルを向上させるために、グループ分けした実習、福祉・教育等の分野別実習における社会人としてのマナーも指導する。

2. 点検・評価

- ①修士論文の指導とともに、院生が担当するケースおよび実践に対する個人スーパーヴィジョンおよび集団スーパーヴィジョンを重視し、心理臨床家としての学生の初期教育を充実させるように努めた。
- ②徳島県内の臨床心理士養成の大学院と連携し、研究・教育をすすめた。
- ③個人の面接技術および対人関係スキルを向上させるために、グループ分けした実習、福祉・教育等の分野別実習における社会人としてのマナーも指導するように努力した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①臨床心理士の養成を基本方針として学生指導を行う。
- ②指導教員以外にも、気軽に学生が相談できるように、例年通りコース内に担任制を敷くことにする。
- ③教員と修士課程1年生が親睦を深めるために、コース旅行を実施する。
- ④適宜、社会人としてのマナーを取得するために、公共施設の使用法、服装・髪型等の指導を行い、臨床心理士にふさわしい行動を促す。

2. 点検・評価

- ①臨床心理士の養成を基本方針として学生指導を行った。
- ②指導教員以外にも、気軽に学生が相談できるように、例年通りコース内に担任制を敷いた。
- ③教員と修士課程1年生が親睦を深めるために、コース旅行を実施した。
- ④適宜、社会人としてのマナーを取得するために、公共施設の使用法、服装・髪型等の指導を行い、臨床心理士にふさわしい行動を促した。
- ⑤指導が必要な学生に対して、複数体制で指導および対応を心がけ、大学内での連携を心がけた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①それぞれの教員が研究活動を積極的に行い、著書・論文の執筆や学会発表を行う。
- ②文部科学省科学研究費補助金の申請を行うようにする。

2. 点検・評価

- ①それぞれの教員が研究活動を積極的に行い、著書・論文の執筆や学会発表を行った。
- ②文部科学省科学研究費補助金の申請を行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

それぞれの教員が、委員として学内の各種委員会に出席し、職務を遂行する。

2. 点検・評価

それぞれの教員が、委員として学内の各種委員会に出席し、職務を遂行した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①臨床心理士の資格を有する教員の一部が、附属学校園にスクールカウンセラーとして赴き、臨床心理学的活動を行う。(附属学校との連携)
- ②公開講座を実施する。(社会との連携)
- ③本学支援講師・アドバイザー派遣等業務に協力し、保育所(園)、幼稚園・小・中学校への支援活動を行う。

2. 点検・評価

- ①臨床心理士の資格を有する教員の一部が、附属学校園にスクールカウンセラーとして赴き、臨床心理学的活動を行った。(附属学校との連携)
- ②公開講座を実施した。(社会との連携)
- ③本学支援講師・アドバイザー派遣等業務に協力し、保育所(園)、幼稚園・小・中学校への支援活動を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

日本コロージュ療法学会第4回大会を鳴門教育大学で行うことになった。